

鎌倉市公共施設再編計画（素案）説明会の概要

■開催日時・場所・参加者数

月日	時間	場所	参加者
10月1日(水曜日)	18時00分～19時30分	深沢学習センター第1集会室	8
10月2日(木曜日)	18時00分～19時30分	腰越学習センター第4集会室	8
10月3日(金曜日)	14時00分～15時30分	玉縄学習センター分室第3集会室	10
10月5日(日曜日)	10時30分～12時00分	市役所本庁舎4階402会議室	13
10月6日(月曜日)	19時00分～20時30分	大船駅周辺整備事務所1階会議室	6
			45

■次第

- 1 開会
- 2 再編計画策定の背景と取組の考え（市長：10分程度）
- 3 鎌倉市公共施設再編計画（素案）について（下平課長：20分程度）
- 4 質疑応答
- 5 閉会

<当日配布資料>

- (1) 鎌倉市公共施設再編計画（素案）
- (2) 鎌倉市公共施設再編計画（素案）についての意見募集の案内
- (3) 意見提出用紙
- (4) 鎌倉市公共施設再編計画 NEWS No.8
- (5) マンガでわかる公共施設再編の取組
- (6) 鎌倉市公共施設再編計画（素案）説明会 アンケート用紙

■主な質疑内容

第1回：10月1日

- ・ 藤沢市でも同様の計画をつくっているが、非常に分かりやすく、評価表が最後に示されている。点数や緊急度についてあり、3か年計画で各施設について書かれている。今年度の予算、来年度の見込も示されている。

→担当課長：できるだけ、年次や予算、経費

を示していけるものについては、今後精度をあげていきたいと考えている。

- ・ 18年度から庁内で何かやっていると言われたが、全然見えてこない。色々な計画をみると、重なる部分がある。地域防災計画についても再編について書いてある。他にも含まれると思うが、位置付けがバラバラである。市民の意見を聞いてから部同士で後調整をするのではなく、調整してから市民に出していくことを提案したい。もう一つは、新聞で空き教室を福祉に利用したというのがあったが、健康寿命が長くなるような形の再編をしてほしい。

→担当課長：18年度から全市的な公共施設の再編を検討してきたが、少し歩調が緩やかだった。今後はそのようなことがないように、この計画を具現化できるようにしていきたい。

- ・ 深沢の旧国鉄の広大な用地を、再編に活用するといいのではないかと思う。総合体育館をつくるとあったが、今ある位置に建替えるのではなく、新しく造った方が安いと思う。



→担当課長：深沢地区については、将来的には消防本部の機能を移し、防災的な拠点にしようと考えている。また、スポーツ施設について、2つの体育館と坂ノ下のプールを統合し、整理をしていきたいと考えている。市営住宅についても、事業区域内に一部市営住宅があるので、深沢の近辺に集約化できるのではないかと、検討を進めている。

- ・在宅介護から、デイケア、リハビリ、ターミナルケアの横の串刺しが非常に重要になっている。鎌倉市の福祉施設があまりにもぺらぺらで、よくお考えいただきたい。

- ・深沢のＪＲ跡地を含めて4箇所がごみ処理の施設の候補地になっている。この4箇所の選定状況など、喫緊の市民の生活に直結するごみ処理について、市長のお考えを聞きたい。

→市長：公共施設再編計画の中には、ごみ処理施設の位置付けはない。ごみ処理、特に焼却場については、別途検討を進めている。恣意的ではなく、土地の大きさや接道の条件など基本的な条件で4箇所しか残らなかった。4箇所を様々な条件、過去からの経過などを踏まえた上で、どこが一番適切かということ、今、検討を進めている。焼却炉をつくるとなると、近隣の方々には大きな反対の動きもあることは承知しているが、必要不可欠な施設であり、また、新たな焼却施設は、これまでの迷惑施設というイメージよりも技術も進化しており、最新の技術を導入するという点でもご理解いただきながら、進めていきたい。

- ・民間の運営などを利用する計画にするのか、また、統廃合した場合、人件費が、多少なりとも抑えられてくるのか伺いたい。

→担当課長：昭和40年、50年の公共施設を整備していた頃には、同様の民間サービスがなかったが、最近は様々なサービスが提供されており、公に替わって民ができるものについては、シフトしていきたいと考えている。人件費については、例えば、消防施設について、将来的には大船消防署と深沢出張所を統合して深沢の地区に消防本部を移転するということをご説明したが、当然、消防活動、救急活動に支障のない範囲でという前提であるが、スケールメリットが出るため、消防の計画では、人員を20%削減されるとしている。

市長：補足すると、本庁を含めた5箇所で支所機能をもっているというのは、他市と比べてもいい意味で充実している。ただし、このまま維持していくことは難しいだろうと考えており、こうした窓口機能も、コンビニで住民票がとれるようになること等により、人件費は削減できるだろうと考えている。消防についても、近隣市と比較して、出張所の数が多いということがあるため、このあたりをどう効率化していくかがポイントとなっている。

- ・消防署の人員の削減について、退職者で自然に削減するかもしれないが、他部署に異動だと業務が違うため、難しいのではないかと。

→市長：これは行政がこういうことを進めていくための課題である。例えば、ごみを収集する職員については、退職してもその分新たに採用するということはしていない。収集職員を事務職員に配置換えをするといったことは一部で行っているが、全員がそういうわけにはいかない。消防についても施設を集約する際に、ぴったり職員数も一気に減らせるというわけではないため、数年のずれは出てくると思うが、こういう計画と合わせて職員の採用計画等も考えて、できる限りムダのないように進めていきたい。

- ・深沢に色々なものを持ってくると言われているが、市有地だけでは足りないのではないかと。

→市長：議会でも、市で持っている土地だけでは、今計画していることに足りないのではないかとというご指摘があったが、決して足りないというわけではない。総合体育館も大きさが確定しているわけではないが、納まらないものを計画に位置付けているわけではない。

- ・23mのシンボル道路をつくる計画になっているようだが、そういうムダな物を作らないでいけば、面積的には足りていくように思う。あの開発に、市の税金 38 億円を投入するというように聞いているが事実か。公共施設をチマチマ複合して減らしていこうとしている一方で、38 億円をどーんと使うということは、筋が違うのではないかと思う。
- 部長：今日は、深沢地域の説明会ではないため、細かい数値は持ち合わせていない。
- 市長：確かに 38 億円と聞けばとんでもない税金が投入されるとお感じになると思うが、公共施設についても 40 年間で 50 億円、トータル 2 千億円規模の計画となっている。再開発や土地区画整理事業についても一時は多額の税金負担が出るが、先行投資でそれに見合うだけの税収の増があれば、それは税金の無駄遣いとは思わない。今は数値を持ち合わせていないが、区画整理事業についても、きちんとした財政計画を示して、税金の無駄遣いにならないということを説明できないと、事業を進められないと考えている。
- ・素案の資-14 ページをみると、保育園と市営住宅を充実していないと感じる人の割合が多いということが、重要な指摘だと思う。若い世代をいかに増やすかが、今後の防災対策、安全、高齢者に満足いただく市政のポイントになってくると思う。
- 市長：おっしゃっていただいた通りだと思う。地域を活性化していくためには、私としては、鎌倉のために貢献したいとか思いをもっている方に入っていただきたいと思っている。そういうことも併せて、若い世代をどう増やしていくかは重要なポイントであるため、保育園の充実等は引き続き、一層進めていきたいと思う。

第2回：10月2日

- ・世界遺産に登録できるまちにするといった点が欠けている。例えば、人口が減ることを大前提にしているが、事業を成功させれば、住んでいる人は減るかもしれないが、外から入ってくる昼間の人口は増える。ロードプライシングも車を来ないようにするのが目的になってはいけない。交通を無理に抑えるのではなく、例えば、公共のシャトルバスを置く巨大な駐車スペース等を用意すれば、大勢の人が入ってこられる。大勢の人がきて、それが困るということではなく、観光客が居心地いいまちにしていこうという目的をつくれれば、喜んで外から来てもらえる。カットすればいいということではなく、活かせるものはもっと増やす、作り変えるという、その辺の判断基準を作ると、公共施設を判断しやすくなると思う。
- 市長：これから目指していく方向性として、総合計画・基本計画に、安全・安心をテーマとして載せており、予算的に優先的に配分していくこととしている。ロードプライシングについても、観光客が来すぎることによるストレスが、まちの中でもあり、そういうことに対しても市民のみなさんが、安全・安心に豊かに生活をしていくことを目指していきたい。公共施設再編については、これまで、施設をつくっていく中で、縦割りで考えていた部分が濃くあった。まずできるところから見直しをして、多世代で施設を共有する、サービスの質を落とさずにかつ、整理統合していこうということを計画している。
- ・財政的に厳しいという中で、現状のサービスをできるだけ安くということが根本的な発想に



あると思う。一方で、現状水準のコストでより付加価値を高めることはできないか。計画をつくる過程で市民の声・意見、反発などに対して、こういう風に説得していかなければならないということを、議論されていると思うが、考え方を教えていただきたい。

→市長：まず同じコストで、より良いサービスということについては、目指すべき方向はそういうことだと思う。現状でも行政が行うと高くなってしまうことがあり、民間の知恵の活用は、よりスピードをあげて進めていく必要があると思う。

→市長：公共施設のおかれている状況、前提条件を理解していただいた上で公共施設をどうしていくかを市民のみなさんと考えていきたい。これまでワークショップ等を行ってきているが、まだまだ市民のみなさんに伝えきれていないという課題意識もある。

- ・おそらく、全体的な意味では総論賛成、各論反対になっていくと思うが、鎌倉市の総合計画に盛り込みながら、具体的にどういう風に進めていくのか。

→担当課長：本市の総合計画・基本計画については今年度から6年間の計画で進めている。

その6年間で2つに分けた実施計画があるが、再編計画で位置づけられたものについては、総合計画に位置付けた上で事業の予算についても改めて計上していく。

- ・公共施設の再編を考えるときに、人口の問題や財政問題から切り込んでいくのは良くない。例えば、幼・小・中を一緒にすることで一年生ショックがなくなり、学力面で非常に良い効果が出て、建物が一緒になることで財政的にも効果がある。また、老人ホームと学校を一緒にしている事例もある。老人ホームと小学校が一緒になると、老人の気持ちが若返り、健康に良くなり、医療費の問題にも効果がある。財政が厳しいことから入っていくと、総論賛成・各論反対になるおそれがある。防災の点では、消防署を減らすということとはできない。鎌倉の特色があるため、かけるところはかける。地域全体、子どもたち、高齢者の幸せということから考えるという形で提案していくと良いのではないかと思う。また、公共施設の料金が安いので、建物の維持費用から料金を割り出してもいいのではないかと。芸術館も安いと思う。高くしても鎌倉には借りる所がないから、使用が減ることはない。料金を高くしても、理論的な根拠がきちっとあれば、納得できるのではないかと思う。

→市長：多世代交流がこれからのキーワードになってくると考えている。地域のつながりが薄れ、核家族化が進んでいる中で、子ども達の成長に少なからず影響しているだろうと、私としては課題意識を持っている。そういう意味で老人福祉施設が老人だけのものになっていることで、多世代交流が仕組みの中で分断されているというのは見直していく必要があるだろうと思っている。みなさんにとって、再編がより良いものになるよう目指していきたいと思っている。受益者負担についても、近隣と比較されてしまうところもあるが、鎌倉市として説明をつくして、ご理解をいただけるようメリハリをつけていきたい。

- ・人口について、大きなお屋敷が分割されてファミリー層が引越してくるケースが多いため、減っているという感覚が全くない。人口推計はどのような方法で誰が行っているのか。

→担当課長：一般的に使われているコーフォート法といわれる方法があり、過去数年間の人口の傾向などから分析している。36ページの人口は鎌倉市独自で推計を行っている。11ページは国立社会保障・人口問題研究所という機関が全国一律の方法で推計している。

- ・良いまちになれば、人口も増えていくという意見もあった。やはり、そのポイントは行政サービスだと思う。新聞で報道されていたが、様々な補助金を市が払って、ほとんど費用がかからず子育てができるという所がある。他の例として、流山市では保育ステーションを駅前

に設けて、親はそこに子どもを連れてきて、その後バスで少し遠い所にある保育施設へ送迎する。そういうサービスがあるのだと分かって、流山市に住もうという人が増えている。今の水準を前提にしているが、サービスの付加価値を上げていく方向性を考えていただきたい。

→市長：ここ数年では、第一小学校区で若い世代が増えている。そういう方々から、鎌倉の豊かな自然環境の中で子育てをしたかったと、おっしゃっていただくことが多くある。そういう意味で、先人に培っていただいた鎌倉のまさにブランド力というのがある。行政の補助金で勝負をしていくと、財政がいくらあっても足りないということになるため、鎌倉としては強みのところをより活かしていけるようなことを考えていきたい。

- ・歳出の部分で扶助費が増えているという話があったが、実際そうだと思う。生活保護の窓口の問題などもあったが、扶助費も増えていくことだけではなく、何か増えていかないような施策、生活補助以外のアイデアはないかと思う。

→市長：扶助費の増加の理由の一つは高齢者の方が増えていくことにあり、いかに健康寿命を延ばしていくが、重要なポイントになっている。近年、扶助費の伸びで顕著なのは、保育の部分である。これは、時代の要請とともに保育園が不足し、行政として対応していかなければならない。一方、保育園に預けなくても鎌倉で生活をしていけるような多様なライフスタイルも PR、提案していけたらいいと思っている。

- ・計画を立てていくにあたって、市内の都市計画のプロの方たちも参加されて作られたのか。そういう方たちがこれから参加したいといった場合、受け入れていただけるのか。

→担当課長：計画策定にあたって、平成 24 年 10 月に策定委員会をつくっている。この中には、都市計画や建築、行財政改革、市民参加といった部分の専門家の方に参画いただいている。それに足りない部分をワークショップ等で補完している。今後については、例えば、どこかの学校を建て替えようという時には、専門家の方、地域の方に入ってもらって、ご意見等をいただきながら、計画づくりを行っていきたい。

- ・公共施設だけを見直しても片手落ちな気がする。公共施設の計画は、まちづくりの観点で色々なことを考えている中の一つなのか、それとも公共施設だけをピックアップして、経費削減を考えているのか。

→部長：全市的なまちづくりについては、最上位計画に都市計画のマスタープランがある。現在、都市マスタープランの見直しを行っていて、その見直しの委員会には、公募の市民の方や、地域の専門家にも入っていただいている。防災やコンパクトシティ、緑の保全など色々な視点で議論が進められている。この再編計画は、公共施設に関するものだが、総合計画とあわせまちの姿を示していく。

第3回：10月3日

- ・小学校へ図書館を移すとあるが、これは、蔵書、閲覧はしないということか。今の図書館は、学習もできるし、新聞も読めるし、色々なことができ、良い場所になっており、そういう施設は残してほしい。

→担当課長：小学校の図書館と一緒にする

か別にするかはこれから検討する。学校の図書館と一緒にして利用している自治体もある



が、これが良いのか分けて貸出しだけにした方が良いのかは、検討していきたい。

→市長：これから議論していくことになるが、各小学校の図書室を充実していく形で、支所にあるものを集約し、そこを大人も利用できるようなことが望ましい形になるのかなと思っている。利用者の方々のご意見をお聞きし、管理の問題で本当にできるのか、学校の事情もあるが、工夫の一つとして検討していきたい。

- ・レイ・ウェル鎌倉がいきなり使用禁止になった。耐震診断強度を欠くと聞いたが、耐震補強をすとも、建替えるともなく、ただ閉鎖、分散を余儀なくされた。こういうことがあると不信感が生まれる。これはどこの責任でしたことなのか。

→担当課長：レイ・ウェル鎌倉は昨年度耐震診断を実施しているが、補強工事ができないくらいコンクリートの強度が低い建物だったということが分かり、利用にも危険ということで、利用停止とさせていただいた。今後については、これから公共施設の再編に非常に大きな経費がかかってくるなどから、この施設自体は売却していく方向で考えている。

- ・今、ある学校に図書室や行政関係、スポーツ体育館を統合して、子ども達も市民も利用できる拠点として建てていくという考え方で良いのか。

→市長：学校も管理上の問題があり、何でもごちゃまぜにということではなくて、校舎の区分した一部を市民のみなさんに開放するような、活用、集約を検討している。体育館も既に夜間に市民の方に利用していただいているが、より有効活用していくことはあると思う。

- ・学校に一般の方が自由に入ってくられると、学校としても管理しきれない。建物自体を子どもの安全を守りつつ、市民が利用できるような形でないと、今あるままは使えないと思う。建物そのものの自体の検討に、市民、保護者を入れていただきたい。

→担当課長：具体的な小学校にどういったものを入れていこうかという構想の段階から、利用者の方、地域住民の方、学校関係者の方みなさんに、様々な議論をしていただいた上で、どういったものがあるのかというのは、時間をかけて検討していきたいと考えている。

- ・とにかく、子ども達の安全をお願いしたい。学校プールについては、今でもプールの授業が年に3日あればいいという状況で、それも午前中からわざわざ歩いて共用プールまで行って、午前中をつぶしているという状況になっている。果たして学校でプール授業が可能なのかということも出てくるため、建物を統廃合するだけでなく、授業の内容も考えていただきたい。

- ・市営住宅の集約について、今の市営住宅は階段が急で、1人には広すぎ、家族4人には狭すぎるといった内容で、建替えを希望されている方は多いと思う。ただし、建替えると家賃はどうなるのか。家賃が上がるなら現状維持か少し高いくらいが良いと思った。同じ場所に建替えるとなると、建替える間にどこか転居、借りないといけない。

→担当課長：家賃については、まだ試算をしていないが、一般的には家賃は上がる。ただし、一気に上がらないように調整はしていく予定で考えている。移転場所は検討中であるが、入居者の方の負担がないよう、仮でどこかに住んでいただくより、一気に移れるように検討をしている。これから調整をしていきたいと考えている。

- ・長期の目標なので、具体的にまだというものが多いいのは分かるが、40年間で990億円だから年間25億円削減という目標でいいのかと思う。市民サービスを向上させて質を高める工夫をするというなら良いが、お金の問題だけが先行するのは行政としていいのか。施設についても耐用年数が60年という話であったが、そういうことに耐えうる仕様や、技術的にも検査ができる体制がないと、時間が経たないうちにレイ・ウェルのようなものが出てきてしまう。

→担当課長：この課題に起因するところはコストからきているため、やはり将来にわたって維持できないことが大前提となっている。公共施設マネジメントの方針として、あらゆる施策・手法を総動員した課題改善へ向けたマネジメントの実現としている。コストを下げるのは命題であるが、サービス水準の維持や、複合化して相互効率的にすることで更なる向上が図れるような工夫をしていこうと考えている。

- ・複合化が基本的に良いという前提が、色々な事例を見て分析した結果ではなく、一般的な概念として良いということからきているのが、おかしいと思う。もう少し、人が住むのに良いものを作るのに、もう少し広い視野がないと、複合化すれば良いということではない。

- ・20年後には人口も1.1万人減るということだが、これを現状維持、向上させるという考え方を他の自治体ではやっている。市営住宅を1、2箇所にとめてしまうのも、住んでいる人のことを考えていない。経済性だけで考えているという方向性は、若干疑問に思う。

→担当課長：他の事例も研究しているのかという点だが、色々、他の事例も研究しながら、間違いなく人口が減ると税収も減るため、そういったところも考慮しながら、公共サービスがどうあるべきかを検討している。市営住宅については今のままでは維持することはできない状況があるため、入居者の負担を最小限に留めるような形、立地で考えていきたい。

- ・セキュリティを重視している社会情勢で学校に統合する必要があるのか。学校の図書室に大人が見るようなものを置く必要があるのか。子どもが生活の中で使う子ども会館のような施設が小学校にあるのは、今、聞いた限りでは賛成だと思う。横浜市では各学校の中に必ずそういった施設が入っていた。大人と子供が共存する施設にこだわる必要はなく、事例として参考になっている市町村が、鎌倉よりも大きい市でなく、もっと田舎でおだやかな所だと、どうなのかと心配である。プールに関して、現在3校の学校がプールを共用していて、雨風で中止になると振替がない。更に統廃合してしまい、前後の授業もつぶしてまで共用プールに行くのか。最低レベルのことも受けられなくなるような統廃合は避けていただきたい。

→市長：ご心配の点はよく分かる。複合化のイメージを示しているが、既に第一小学校では校舎を区分し、入口は別にして市民の方が常に学習センターの形で使うスペースを設けている。安全面を考慮せずに進めることはないため、そこはご理解をいただければと思う。

- ・50%コスト削減は相当無理をして出したのではないかなと思う。あまり無理をすると、実現可能性なくなるため、もう少し慎重に実現可能性について考えられた方が良いのではないかな。2点目は、50%削減したとしても過去6年間の平均コストの17.4億円に足りない。いずれにしても単にコストを削減するだけでは問題解決には至らないのではないかな。3点目は、コスト削減と同じ感覚で収入を上げていく。公共施設の有効活用もあるが、リーズナブルな収入の上げ方を色々なケースで工夫されてはどうか。例えば、野村総研が市に広大な土地を譲渡してきたが、いまだに有効活用できているとは思えない。市が公共機関として持っている有効な資産を本当に効率的・効果的に活用していくという発想が、重要になるのではないかな。

→市長：実現可能性については大きなポイントである。厳しい計画をたてればたてるほど、実現可能性が厳しくなるが、あまりにも目標が低いと効果が薄い。これは、行政の独りよがりでは実現できる施策ではないと思っており、そういう意味で、これから期間の長い計画であるが、みなさんと一緒に進めていくことを基本にしていきたいと思っている。

→担当課長：収入増については、統合した後の土地については、売却や、長期に借地をして資産を有効に活用したいと考えている。これまで、そういう視点が欠けていたため、でき

れば削減する以上の入りもしっかり確保していこうと考えている。

- ・建設年別の図ではインフラを除いて、市民が利用している福祉から教育までの施設を抜き出した方が分かりやすいのではないかと。本庁舎と支所のページで、支所の図書館と集会室を地域の拠点校へ、窓口はコンビニか本庁舎の方になるとあるが、学校施設の防災の面、コンビニで済ませる時、個人情報など解決しなければならない課題がある。
 - ・学校に図書館をとという点では、入口を別にすれば良いと思う。それも貸出し専門ではなく、閲覧もできるようにすること、本も市の財政で買うのではなくて、全国から公募するとよい。ボランティアを頼んで整理すれば、金をかけないで本が集められると思う。
 - ・財政の問題が非常に気になる。40年後を見通すことは、今の経済学者でもできない。将来がどうなるかも分からない中で財政が厳しいと強調するあまり、学者でさえできないようなことを市役所レベルでやるのは問題で、市役所レベルで解決できる問題ではない。
- 市長：確かに40年間の間で物価の変動、今でも資材の高騰もあって、それによつてはずいぶんと前後するものではあると思う。ただ、民間企業であれば、償却も含めて長期的な資産の管理を行っているのは当然とのご指摘があったが、行政として、これまでしっかり向き合つてこなかったということがあり、こういう計画をつくる必要があった。これは何か脅しに使うということではないため、その点は注意していきたいと思う。しかし、こうしたことを今まで出してこなかったこと自体が問題であると思っている。

第4回：10月5日

- ・学校の施設については、新築などで国の補助金やそういうものをこの計画で数値的に加味しているのか。
- 担当課長：まだ補助金については、仕様などによって変わってくるため、現段階ではみていない。ただし、学校においても複合化についても補助のメニューなどもあるため、今後そのようなことを検討していきたい。
- 部長：最近、再編の計画が色々ところで立てられており、計画策定のための補助や解体・除却に対するものなど整備されてきているようである。
- ・行政の窓口が少なくなることに對して、手続きが簡素化する、窓口までいかななくても処理ができるというようなことを書いておかないと、あまり良いことにはならないのではないかと。
- 市長：鎌倉の場合、支所も含めて5箇所、市民の方が来られる窓口がある。これは、近隣でみてもある意味充実している窓口対応というのが、できているのが現状だと思っている。これを単に減らすということでは、サービスの低下になるため、支所までお越しいただかなくてもコンビニなどででき、代替措置をみなさんに提示しながら、窓口の縮小できる部分はしていこうと考えている。
- ・大船観音側のペデストリアンデッキについて、新聞情報では30数億円で、照明・屋根のついた歩道橋で、国・県の補助で作っているらしい。市としての負担は1割、2割であるようだが、維持管理は市が負担するわけになる。もう一つ、施設を更新するにあたっての方法論で、大船中学の建て替えのために仮設を建てている。施設を建設するにあたって、民間であれば、あれだけ空いているスペースであれば、本設にしてしまうと思う。子供たちが仮設に入つて



期間も短いことも考慮してはどうか。

→市長：そういった視点は非常に重要だと考えている。大船中学の場合は、実は、東日本大震災においても大きな亀裂が入ったということもあり、早急に今の校舎から仮設に移らしてほしいというのが、地域、保護者の方も含めたご意見であり、これは、そのような経過から取り組んだ。今後考えるにおいては、例えば市営住宅においては、同じ場所で建て替えをするというのではなくて、新たな場所で集約して、新たに作って移っていただくというような考え方をしていこうと考えている。そして、二度手間、三度手間にならないよう進めていくということは十分、計画の中でも配慮していきたいと思う。

- ・ 1 番目に 40 年後をどういう展望で、どういうまちにしていこうかを、現時点で良いので教えていただきたい。2 番目に人口の問題で、人口がずっと横ばいで、ちょっと増えた時もあった。どういう取り組みをされたのか。日本の人口は減りつつあるけれど、鎌倉ならではの人口の増やし方を、市として考えてほしい。3 番目に機能と施設の分離について、どの機能を絶対に複合化してはいけないか、確固としたことをここでは書いていない。阪神淡路大震災のときに、1000 人、2000 人を受け入れる現場で働いていたが、そこで譲ってはない機能がある。特に西宮は、仮設住宅は自分の町内にあった。それは、それだけの公園があり、学校がきちっと緻密にあり、集会所があり、地域に充実していたからである。学校に子どもの家、子ども会館、貸し出し、そういう程度以外に複合化したら何が起こるか、単にセキュリティだけでなく、教育上の問題ある。そんなに簡単に複合化について言わないでほしい。

→市長：全体の計画で最上位にあるのが、総合計画である。総合計画の中に基本計画があるが、基本計画の中では安全・安心を最重要項目に掲げており、力をいれて取り組んでいく。あわせて、地域のつながりや、核家族化に伴う多世代交流が少なくなったことによる様々な課題があらうかと思っている。様々な世代による課題を一緒に共有しながら、まちの中でどう交流していくのかということ、公共施設再編という一つの切り口の中でも、より突き詰めていきたいと思っている。そして、人口については、新たに開発ができる土地もふんだんにあるわけではなく、鎌倉の未来を考えていく中では、緑をなくして開発を促進する方法はふさわしくないと考えているので、急激な人口減少の歯止めをかけ、ゆるやかな人口減少にとどめながら、かつ若い人たちが鎌倉に入ってくることを目指していく、いわゆる人口構成にも配慮したような取組を目指していきたいと考えている。

- ・ 市の施設という意味ではないが、駐車場が特に目立つ。観光都市であるため、駐車場は必要だとは思いますが、全体のバランスや古都鎌倉のイメージにあうよう歯止めはかけられないのか。

→部長：全体の土地利用に関しては都市計画のマスタープランがあり、市民の方々に参画していただきながら、見直しを行っているところである。大きな駐車場については、駐車場法があるが、いわゆるコインパーキングについては規制する法律がないため、条例をつくり、一定規模以上のものについては、市に届出をしていただき、例えば、周りに木を植えてくださいとか、出入口はこうしてくださいとか、看板の色を変えてもらう等の取組をしている。

- ・ 世界の人が鎌倉を目指してくるその魅力とは何か、そういうものをつくらないと、おそらく人口はどんどん減っていく。だから、世界の人が見に来るだけの価値のあるものを考え出さないとダメだと思う。
- ・ 車の問題が出たが、鎌倉へ県外、市外から来る人が多い。道路は限られているし、面積も限

られている。市の外回りに車両を格納する拠点をつくり、そこから歩くか、公共交通できていただくかする必要がある。例えば野村の跡地に観光バスが 100 台くらい入れられるのではないか。そういうようなことを、ちょっと手を加えると可能なのではないかと思う。

→市長：交通問題にからめた、公共施設として何か活用できる場所というご意見だと思う。

交通問題についても重要課題としており、検討会も頻繁に行っているところである。具体的には、ロードプライシングを活用しながら、これまで行ってきたパーク＆ライドなどをより一層活用していくことで、歩いて楽しめる鎌倉のまちを目指していきたいと考えている。その中で、空いている土地の有効活用など、そういうことも必要だと考えているため、はやくそうしたことが実現できるように頑張っていきたいと考えている。

- ・市に寄付された邸宅や土地の一覧表、実態を市民に教えるべきだと思う。最近、二階堂の青少年会館で行われている健康体操の講座に参加し、肩こりなどが見事に治った。青少年会館を必要と思わない人がほとんどだとアンケートにも出ていて、自分も健康体操をやらなかったら、必要ないと思っていたかもしれない。長寿の社会に応える鎌倉市、鎌倉に行けば健康寿命が保たれるというような、ソフトの考え方がないと、削減ありきでは、魅力のある鎌倉にはならない。アンケートで画一的な方向を導き出さないようにしてほしい。

- ・生涯学習センターでやっていることと、青少年会館でやっていること、老人福祉センターでやっていること、色々な講座がぶつかってしまっている。再編成において、うまく取り入れられるような公共施設・団体ができたら有意義である。複合化をする場合に、どういう複合化がベストなのかを考慮していただきたい。生涯学習について、どうしたら、みなさんに浸透していくのかという課題もあるので、ぜひそういう取組を行ってほしい。

→市長：鎌倉は、生涯学習の推進のみなさんも熱心に活動していただいて、魅力的な講座も頻繁に行っていただいている。より多くの方に知っていただいて、参加されたら大変満足されると思うし、うまく行政としてもバックアップして周知をしていき、よりよいものにしていくことを、ぜひ一緒に考えさせていただきたいと思う。

- ・日常時は利用率が低く、青少年会館のようにニーズがなかったとしても、災害時の問題を考えると、必ずしもばさっと削っていいものではないと思う。

→市長：鎌倉では、特にお寺さんや神社さんと災害時の協定を結び、災害時には開放していただいて集まれるようにしている。災害時にいかに対応できるかは非常に重要なポイントだと思っている。民間の施設も含めてトータルで考えていきたいと思っている。

- ・ごみの時くらいの内容で、意見を聞く場を持ってほしい。見直しにおいても、市民の多くの意見が聞けるような場を持ってほしい。

→市長：できる限りきめの細かい対応、また、市民のみなさんにも十分に知ってもらっていくことが大事だと思っている。何人かのグループでお声掛けいただければ、ご説明に行くことを、こちらでも準備しているので、ぜひお声掛けいただければと思う。

第5回：10月6日

- ・今平均で 17 億使っているものを、25 億ということは 8 億プラスならお金が回るという計算になっているということか。



- 担当課長：実施できるだろうということである。本来であれば、これから扶助費や社会保障費がますます増えていくこともあり、税収増が見込めれば若干でもこういったインフラ関係の投資もできると思うが、なかなかそういう環境は推測できないため、そうすると、そのあたりに目標設定が必要かと考えている。
- 市長：扶助費等の金額は、想定していたよりも増えてきている。ただ、今後も増え続けていくかということも、国の制度にもよってくるため、そのあたりは正確には分からないが、現状と同じで推移する、少し増える程度であれば、この中で公共施設を維持していくための費用負担として行けるのではないかと考えている。
- ・コストの話が前面に出ているが、子育て世代がたくさん引っ越してきてくれるようなまちにしていく、という発想で、税収をふやしていくとか、生み出す計画が何もなく、ただ少子化だから小さい学校は廃校にして他とくっつけようとかが見えてくる。10年後どうなるかも分からないこともあるわけだから、鎌倉市が打って出る、少子化に対してこうするんだというプランもあって、なおかつ、こういうことを考えていかないと、寂しいと感じた。
- 市長：最近の傾向では、鎌倉地域、玉縄地域に若い世代の人が入ってきて、児童数が増えてきている。大きな要因としてはマンション建設などいわゆる住宅供給によると思っている。越してきた方々にお聞きすると、鎌倉の自然環境豊かな中で子育てをしたかったという方が多いと、個人的には受け止めている。そういう意味で鎌倉はアドバンテージのあるまちであると思っている。自然環境にのみならず、歴史的なものもたくさんあり、また、文化都市と言われる、どこまで子ども達に教育できているかという課題はあっても、そうしたイメージで見られている中で、今後、子ども達を地域全体で暖かく見守っていける、多世代の交流ができるまちが非常に求められてくると思っている。より関係ができるような仕組みを、公共施設再編をきっかけとして組み込んでいくことができれば、よりよい形になっていくと思っている。もう一つは、東京へ通勤をするパターンが多かったが、東京へ通勤をするということがストレスになることもあるかと思う。鎌倉で働ける場所を増やしていくことが、若い人たちを鎌倉に呼び込んでいくために必要なことかと思っている。
- ・学校の中へ複合化する施設について、教育現場の先生の意見をどういう風に吸い上げているのか。例えば、先生方の意見であれば、もっと違う形になるかもしれない。図書館の貸出しだけをどこかに分散していくことも書いてあるが、図書館の仕組みそのものも、図書館が子どもを育てる場所としてとても良い場所だと思っている。各地域に図書館があって、過ごすことができる場所を残して欲しい。
- 担当課長：この計画づくりは、庁内様々な部署と調整を行っており、昨年は4分野のプロジェクトを作って、検討している。学校の先生については、市が基本方針をつくったときに、これからは学校を拠点とした複合化をしていくということを、お話をさせていただいているが、言葉だけだった。今年度に入って、春から先生方にはご説明させていただいている。今現在も、様々なご意見をいただいている、ご心配されておられるようなことを、これから先生方とも一緒に考えて払拭するように考えている。例えば、どういったものを複合化できるのか、また、できないのか、といったことや管理区分をどのように考えていくのか等、これから具体的なことを調整していく段階となっている。
- 市長：セキュリティの問題など、学校で気を使っているところである。今、イメージとして出しているものも、一つの建物ではあるけれども、分けていく考え方としている。第一

小学校では入口も分けて生涯学習機能をもった場所と小学校を分けて実施している。そうしたことをベースに、複合化を考えていきたいと思っている。決して現場の声を無視して進めていくわけではないため、そこは丁寧に今後も行っていきたいと思っている。図書館については、学校図書館の中で子ども達が使っている部分はあるが、もう少し、多くの方に利用していただける仕組みができないかということも考えていきたい。

- ・公共施設の公共を市長はどのように考えているのか。図書館にしろ、生涯学習センターにしろ、お金を出せば使えるスペースや図書がある場所はあるが、あえてそれを無料で貸出ししたり、廉価にスペースを提供するのが、今までの従来の公共施設の考え方だと思う。
→市長：私としては、公共の役割は、民間では担うことができない部分と、最終的には収れんされていくべきだろうと思っている。公共としては、採算はとれないけれども、きちんと意義のあるものを追求していくところに公共の役割があるだろうと思う。
- ・手段として企業のセンスや方法を参考にされるのは良いと思うが、相いれない一線があるということは、市職員のみなさんにはいただきたい。視覚に障害のある方には、このようなニュースは全く届いていない。そういう方たちの意見を聞く体制になっていないままに動いているというのは、公共が担うという視点が足りなかったのではないかなと思う。今回の企画だけではなくて、パブリックコメントを求められる場合は、いつもそのようなことを感じる。
→部長：今のご意見は、公共施設再編に関わることでなく、市全体に関わるご指摘と思うので、ご意見としていただいて、今すぐにできない部分もあるかなと思うが、図書館で読んでもらえる設備とか、ホームページも読み上げ機能があるため、そういうものをうまく使っていくとか、何らか対応を考えていきたいと思う。
- ・一局集中の図書館になってしまうと、視覚障害者の方がそこに行かなければ情報が得られない。だからこそ、5つの行政区域に図書館がある意味があるのだと思う。私は立派な図書館がなくてもいいから、地域の図書館が充実した方が良いと思う。学校図書館が代替できるのではないかとおっしゃったが、学校図書館法による図書館と社会教育法による図書館では違う。理念も方法も、法が決めているものについては違う。その辺もチェックしてほしい。PFI事業については、リスクもあることも併せて説明していただいた方がより説得力がある。先進でない事例もあるため、それも含めて説明していただきたい。
- ・学校の複合化について、危険な事件が多すぎて、仕切りがあっても何らかのイベントと称して出かけていくとか、できてしまうと思う。中央図書館以外に4つの図書館があるが、子どもを連れのお母さんが安心して読み聞かせをする、子どもが大きくなって一人で通えるようになるという、学校以外の公共の場を成長する中で安心して利用できることが大事だと思っている。もし、中央図書館以外の図書館がなくなると、学校敷地内の図書はいっぱい利用できるかもしれないが、市全体で公共のサービスが劣化していくことは良くないと思っている。どんなに小さくても古くても、地域のお母さんが歩いて連れていける図書館は、存続はしていただきたい。
- ・空家に対する市の考え方はあるか。市民の集う場所としては、空家を市が買い取ったりして、実際、藤沢市では市民の家とかがある。今後鎌倉では考えないのか。
→市長：今何か計画的に民間の空家対策をつくっているわけではないが、空家に対して条例をつくっているところで、どちらかというと、それは管理の面のことである。今後、活用という考えも入れながら、検討はしていきたい。

参加者アンケートの結果

①回答者の属性

- ・男性 20 人、女性 13 人、無回答 2 人
- ・20 歳代 2 人、30 歳代 2 人、40 歳代 3 人、50 歳代 4 人、60 歳代 8 人、70 歳代以上 14 人
無回答 2 人

② 説明会への参加の動機

1 以前から公共施設の再編に興味があったから	22 人 (33%)
2 今回の意見募集や説明会の案内を見て興味を持ったから	12 人 (37%)
3 その他 (1、2 と重複回答の場合を除く)	1 人 (30%)

合計 35 人

③ 説明会の内容

③-1 公共施設再編計画（素案）は理解できましたか。（無回答 2）				③-3 今後もシンポジウムや市民ワークショップが開催された場合、参加したいですか。（無回答 1）			
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1	はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1
10 人 (29%)	16 人 (46%)	5 人 (14%)	2 人 (6%)	17 人 (49%)	14 人 (40%)	3 人 (9%)	0 人 (0%)
③-2 今回の説明会に参加して良かったですか。（無回答 2）							
はい 4	← 3	→ 2	いいえ 1				
20 人 (57%)	12 人 (34%)	2 人 (6%)	0 人 (0%)				

④ 自由意見

- ・素案をいただきましたので、家庭でも話題に致します。資料 8 以降のグラフ上との色分けが分かりにくいので、カラーかドット模様等の模様にしていただいた方が（一部でも）モノトーンより比較しやすいかと存じますが、如何でしょうか。
- ・提案：庁内の全部が横断のメンバーによる特別委員会が必要である。
- ・問題が鮮明となり有意義であった。
- ・待ったなしの状況である公共施設再編計画ですが、そういった状況下での説明会ということを考えると参考人数の少なさが気になりました。今回の 5 回の説明会に対してどの様にふりかえられるのか興味があります。
- ・こうした説明会の PR の仕方は工夫が必要。本当に市民の声を聞くことが大事であることから、もっと分かりやすく行政センターや学習センター、学校、他の関係機関等を利用してやるのが大事です。
- ・貴重な機会をありがとうございます。もっと質問したかったです。また機会があったら参加します。市長をはじめ皆さんが一生懸命考えてくださっていることがよくわかりました。一市民としてよりよい鎌倉市になるように協力していきたいです。ぜひ、市民の声を聞いていくことを続けてください。「鎌倉がどこへ向かおうとしているのか？」私たち親はよく話題にしています。
- ・鎌倉市に住もうと思える市に発展します様おねがいたします。人口が増える様な魅力的な市にしてください。
- ・総合計画との連携についてもう少し掘り下げて伺いたかったです。
- ・再編計画（素案）について、十分でない、不足の部分が多い。ワークショップの内容に不満。
- ・市の業務については、直接訪ねる窓口以外は目に見えませんでした。この度の資料を見せていただき、市の現況を知ることが出来、有意義でした。
- ・始めて参加しました。冊子を読んで協力していきます。